

「県蝶」制定記念座談会 オオゴマダラが県の新たなシンボルに

進行役＝島 洋子
(琉球新報社取締役編集局長)

美しい沖縄を次世代につなぐ

2020年4月、オオゴマダラが沖縄県の「県蝶」に制定されました。3年経った3月31日、那覇市泉崎の琉球新報社で関係者による記念座談会が開かれました。

県のシンボルを
48年ぶりに制定

島 まずは玉城デニー知事に、県蝶制定の意義についてお聞きしたいと思います。

玉城 沖縄県は2020年4月1日付で、オオゴマダラを新たな県のシンボル「県蝶」として制定しました。これまで県のシンボルとしては県章、県魚「グルクン」、沖縄県民の歌、県花「デイゴ」、県木「リュウキュウマツ」、県鳥「ノグチゲラ」の6つが制定されていましたが、県のチョウは7つ目で、実に48年ぶりの制定となりました。

沖縄県知事
玉城 デニー沖縄県の蝶制定県民の会顧問
医療法人陽心会理事長
高良 健一般財団法人
沖縄美ら島財団理事長
花城 良廣国頭村観光協会会長
比嘉 明男沖縄県の蝶制定
県民の会会長
大城 安弘沖縄県の蝶制定
県民の会副会長
久保田照子

どのように結びつけて発信し、沖縄の振興にどう生かしていくか、国頭村観光協会の比嘉会長に伺いたいと思います。

比嘉 本島北部は一昨年の7月26日に世界自然遺産に登録されましたが、忘れてはならないのは復帰前の1970年にあった伊部岳実弾射撃演習阻止闘争です。

米軍は12月31日に実弾を伊部岳に撃ち込むと通告してきました。私の住む国頭村安田区は緊急の区民総会を開き、小学生からお年寄りまですべての区民が阻止行動に移ると決定。当時高3だった私も参加し、その結果米軍は演習を断

今回の県蝶制定で、県民一人一人が生き物と関わりを持ち、沖縄独自の自然の豊かさへの理解を深めることにもつながっていくと考えます。教育現場においても、オオゴマダラの放蝶などは子どもたちが沖縄の豊かな自然環境に目を向けるきっかけとなり、これらを保全することの重要性の理解にもつながるものと考えています。

県はこれまでも身近な生き物を対象とした「沖縄生きもののいっせ調査」などを通して、自然環境の保全に関する普及・啓発を図ってきました。引き続き沖縄の自然環境を守り育てる取り組みを推進していきたいと考えています。

自然環境の保全で
病気を予防

島 本日はオンラインでの参加になりますが、長く地域医療に取り組んできた立場から、医療法人陽心会の高良理事長に県蝶制定の意義、チョウと触れ合うことによる医療健康増進面での効果などについて伺います。

高良 小動物を大切にする意義を健康面で考えると、まず昆虫は4億年ほど前から、チョウは2億年ほど前から地球上に生息していますが、われわれの先祖である現生

人類（ホモサピエンス）の歴史はたかだか20万年程度に過ぎません。ここ数十年、人類は急激に地球環境を破壊して地球温暖化を含む種々の変化を招いています。環境が変わると新しい疾患も増えてきます。今回の新型コロナウイルスもその一例かもしれません。

医療の立場からすると、治療はもちろん病気の予防がより大切です。さらに広い意味で自然環境の保全が重要となります。またわれわれは日々いろんなストレスにさらされていますが、自然に親しむことで軽減される場合があります。小動物が棲めなくなった地球にはいずれ人類も住めなくなり、チョウを含めた小動物を大切にすることは、自分自身の命を大切にすることでもあります。今回の県蝶制定は、そのことを知ってもらう一つの大きなポイントになると思います。

またチョウは再生のシンボルといわれます。先の大戦で焦土と化した沖縄にチョウや自然が戻ってくることは、沖縄が再生した象徴だともいえるでしょう。

チョウは環境の
バロメーター

島 沖縄美ら島財団は、沖縄の自

とつてもいい環境ですから、それを整備・保全する。

二つ目には、シンボルがあると活動のより活発な展開が期待できるということ。三つ目は非常に重要だと考えていますが、沖縄県がチョウ王国、バタフライキングダムであること、そして生物多様性に富んでいることを県内外に発信する。沖縄県に生息するチョウの90パーセントは熱帯系のチョウで、鹿児島県から北にはいませんから、観光資源として非常に有望です。沖縄に生息する熱帯系のチョウを、ぜひ観光資源として育て上げたいと思います。

チョウを子どもたちの
情操教育に活用

島 久保田副会長は首里城が再建される前から環境保全の活動に尽力されています。自然環境を次の世代に残していく重要性などについて語っていただけますか。

久保田 沖縄観光コンベンションビューローの前身である沖縄ビジターズビューローの副会長をしていた頃、亜熱帯の特徴を生かした花を沖縄全島に咲かせ、沖縄をフラワーアイランドにしたいと考えていました。四季折々の花が咲けば人もチョウも必ず集まってくる

然や歴史風土の魅力を全国に発信しています。花城理事長、県蝶制定の意義と今後の活用について。

花城 県蝶に制定されたオオゴマダラの背景には、たくさん的小動物がいます。そういうものを含めて、今後は環境保全のシンボルとして今回の制定を見たいかというわけではありません。

チョウは環境のバロメーターとして一つの指標になります。つまりチョウが飛ばなくなったら、われわれが住んでいる環境はおかしくなっているということ。チョウがたくさん舞っている時には「ああ、いい環境になってきたな」という指標になる。そういう視点での活用も大切になります。

さらに積極的にやるのなら、近くの森を大事にすることで、そこでチョウが育まれていく。チョウの蜜源となる花をたくさん増やしていけば、みんなで街の環境を良くしていく効果も生まれてくるのではないかと思います。

自然を生かして
滞在型の観光を推進

島 沖縄本島北部と西表島が2021年、奄美大島と徳之島とともに世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産登録と県蝶制定を

だろうと。

2003年頃、首里城下にチョウを翔ばそう会が主催する、親子でチョウの食草を植栽する活動が始まりました。その活動によって子どもたちの環境整備に対する意識向上や情操教育を推進するとともに、観光振興のためのまちづくりにも役立てたいと思っていました。1年に2、3カ所植栽しましたが、親子で語り合いながら楽しんでいる様子はまさに情操教育そのものでした。

これまでさまざまな場所で植栽してきましたが、私たちボランティアだけでは食草の維持・管理がとても難しく、70〜80パーセントは枯れてしまいました。そうした業務には、官民一体となって取り組まなければいけないとあらためて感じています。オオゴマダラが観光資源となり、子どもたちが夢と希望を持てる街、チョウが舞う緑豊かな街をぜひつくっていただきたいと思います。

誰も取り残されない
豊かな社会を

島 県は2030年に17項目の社会課題解決を目指すSDGsを、県政の目指す価値に位置づけています。それを推進する立場から、



豊かで美しい沖縄をつなげていく

島 最後に各登壇者からまとめの発言を。

高良 健康面では自然に親しんだほうがいいですよ、ということ。ウイルスや細菌が流行らないように、さらに有害物質を出現させないために自然を壊したらダメです

玉城知事にあらためて沖縄の自然環境保全、観光振興、県政の課題にどう生かすかお尋ねします。
玉城 沖縄県では社会と経済に環境を加えた、いわゆるSDGsが一体となつて未来への振興が図られなければならないということを基本計画に盛り込んでいます。

また希少種はもちろん、オオゴマダラをはじめ誰もが見慣れている在来種に、目をかけ手をかけ未来に残していく。これが沖縄のSDGsのそれぞれのゴールにもつながっていくと思っています。

先人が残してくれた自然環境を、これから先どう未来につないでいくか。それを私たちがしつかり考えていくことが沖縄県の発展につながっていくと思います。みんなが取り組んでいけば、誰も取り残されない豊かな社会を必ずつくっていくと考えています。

よ、ということ。情操教育の面でいうと、われわれは約20年前から那覇市内の小学校にチョウ園を寄贈したりしています。沖縄の素晴らしい自然を残していくために、何とかしないといけないと思っています。

花城 チョウの別名である「胡蝶」の関連でいえば「胡蝶の舞」という舞踊があります。その舞は「自由」「幸せ」「愛」を表現しており、主に豊年豊作を願う時に踊られているようです。今後、オオゴマダラをシンボルとして観光や環境保全に活用する以外に、自由、幸せ、愛という言葉をシンボル化していくことも必要になると思います。

比嘉 よく言われることですが、保全と観光。なかなか難しいですが、同時に進めていかなければいけない。また入っていくところではないところのゾーニングはされていますが、条例化はまだ。そこを早めにやっていただきたいですね。それによってしっかりと規制ができると思っています。

大城 本県の熱帯系のチョウを観光資源にするためには、底辺を広げることが肝要です。そのためには、一つ目に県内全41市町村で「おらが村のチョウ」を制定していただきたい。現在10の市町村が制定

していますが、ぜひ残りの市町村においても制定してほしい。

二つ目には、全自治体でチョウの愛好会を設立していただくこと。おらが村のチョウができ、愛好会ができれば、全県を網羅した「チョウサミット」を実現したいですね。そうすれば全県的な体制が整い、沖縄に住む熱帯系のチョウを観光資源にできるという自信が得られると思います。

久保田 犯罪のない沖縄を目指す「ちゅらさん運動」とともに、官民一体となつてこの取り組みを推進していきたいですね。自然保護や沖縄観光に関して中学生が投稿した新聞記事を読むと、中学生でも沖縄の自然環境や観光を真剣に考えていることが分かります。本当に喜ばしいことです。

島 今日集まっていたいたパネリストに共通する思いは、県蝶制定を通して沖縄の自然環境を守るという意識を醸成し、さらに豊かな沖縄、そして美しい沖縄を次世代につなげていくことだと思います。

これを県民運動として広げていくことで、これからの沖縄を子どもたちに引き継げるよう、琉球新報社もお手伝いをさせていただきます。本日はありがとうございます。

医療法人 陽心会グループ

医療法人 陽心会
理事長 高良 健

社会福祉法人 陽風会
取締役 高良 まき子

有限会社 ヘルスサポート
取締役 高良 まき子



大道中央病院
那覇市安里1-1-37 TEL.098-869-0005(F)
リハビリテーション部 TEL.098-869-0050
メディカルプラザ大道中央
那覇市字大道123 TEL.098-886-0007(F)
総合診療部門 TEL.098-886-0115
看護部 TEL.098-886-5141
聴覚部門 TEL.098-886-0115
人工透析部門 TEL.098-886-5151
検査部門 TEL.098-886-5678
介護老人保健施設 やすらぎの里
那覇市安里3-1-57 TEL.098-869-0030
グループホーム たかまーみの家
那覇市字大道94-2 TEL.098-867-0081
小規模多機能型ホーム 大道
那覇市字大道94-3 TEL.098-885-0018
グループホーム 大道が丘
那覇市字大道94-3 TEL.098-885-0036
小規模多機能型ホーム 三原
那覇市三原2-8-10 TEL.098-840-0027
訪問看護ステーション 陽心会
那覇市安里64-9-1 F TEL.098-860-1270
那覇市地域包括支援センター 若狭
那覇市牧志2-1-10 TEL.098-863-1165
那覇市地域包括支援センター 新都心
那覇市読道1-6-15 TEL.098-941-2252
(訪問介護事業所)
那覇市字大道128 TEL.098-951-0025
ケアハウス 常夏の島
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036
小規模多機能型ホーム 牧志
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0025
有料老人ホーム 星の館
那覇市安里1-1-17 TEL.098-917-1262
特別養護老人ホーム 前島
那覇市前島2-18-17 TEL.098-894-8039
那覇市末吉老人福祉センター
那覇市首里末吉町2-14 TEL.098-886-3510
那覇市豊川老人福祉センター
那覇市豊川2-3-11 TEL.098-853-1139
那覇市比老人憩の家
那覇市比2-14-1 TEL.098-864-0580
有料老人ホーム 三原の家
那覇市三原1-26-40 TEL.098-832-5981
有料老人ホーム 牧志
那覇市牧志2-9-43 TEL.098-862-1331
有料老人ホーム 西町
那覇市西1-20-19 TEL.098-863-7884
デイサービスセンター リバーサイド
那覇市安里1-1-18-3F TEL.098-862-1501



有料老人ホーム 健康の杜
那覇市安里3-1-12 TEL.098-941-0070
有料老人ホーム 松風館
那覇市比2-10-14 TEL.098-869-8557
那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0550
グループホーム 若狭の家
那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0551
在宅総合ケアセンター 大道
那覇市安里381-1 TEL.098-885-0030
デイサービスセンター 若狭海岸
那覇市地域包括支援センター かなぐすく
那覇市読道1-6-8 TEL.098-866-0066
福祉用具貸与・販売事業所
那覇市字大道128 TEL.098-885-0100
那覇市若狭2-5-17 TEL.098-869-0087